SONY

4-573-989-**02**(1)

パーソナルオーディオシステム

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書と別冊の「かんたんスタートガイド」、「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

©2015 Sony Corporation　Printed in China

4573989021 (1)

CFD-S51

保証書

持込修理

品名	パーソナルオーディオシステム
型名	CFD-S51
お買上げ日	平成・西暦　　年　　月　　日

本書は、本書記載内容(右面記載)で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。

ソニー特約店

お問合せ先：修理相談窓口
フリーダイヤル：**0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話からは、050-3754-9599
ホームページ：http://www.sony.jp/support/
ソニーマーケティング株式会社
東京都港区港南1-7-1 〒108-0075

保証期間	お買上げの日から　1年
お客様住所 お名前	電話　-　- 様

無料修理規定

1. **正常な使用状態で保証期間内に製品(ハードウェア)が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別(出張修理、持込修理、引取修理)をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書(再発行しませんので、大切に保管してください)の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、(1)お買上げのお店、(2)お近くのソニーサービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種類です。**

種別	受付窓口	保証書の提示・提出	注意事項
出張修理	(1)(2)(3)	出張修理担当者が訪問した際に提示	※1
持込修理	(1)(2)	持参した製品の修理依頼の際に提示	※2
引取修理	(3)	製品の引取時に指定業者へ提出	

※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用(実費)を申し受けます。
※2 (1)(2)へのご依頼が難しい場合は、(3)にご相談ください。

2. **お客様のご要望により、出張修理の種別についてor引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。**
3. **保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。**
(1)本書のご提示がない場合 (2)本書にお買上げ日およびソニー特約店の記載がない場合または本書の記載を書き換えた場合 (3)保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合 (4)使用上の誤り(取扱説明書、本体貼付ラベル部の注意書き に従った正常な使用をしなかった場合を含む)による故障・損傷 (5)他の機器から受けた障害または不当な修理、改造による故障・損傷 (6)お買上げ後の移設、輸送、落下などによる故障・損傷 (7)火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧などによる故障・損傷 (8)業務用など一般家庭用以外での使用による故障・損傷 (9)消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換
4. **故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。**
5. **修理に表して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。**
6. **本書に基づく無料修理(製品交換を含む)後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。**
7. **故障によりお買上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。**
8. **記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。**
9. **本書は日本国内でのみ有効です。**(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

※本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。　T05-4

安全のために

機器を本箱や組み立て式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使用しないでください。

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源を切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しないでください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。引火のおそれがあります。

本機に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

電池は、直射日光、火などの過度な熱にさらさないでください。

機銘板は本機の底面に表示されています。

ご注意

この装置に対し光学機器を使用すると、目の危険を増やすことになります。

レーザーの仕様

- 放射時間：連続
- レーザー出力：44.6μW 未満

この出力値は、7mm の開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より 200mm の距離で測定したものです。

使用上のご注意

置き場所について

本機やカセットテープ、CDなどを次のような場所には置かないでください。
- 磁石やスピーカーのすぐそばなど、磁気を帯びたところ
- テレビの近く
- 窓を閉め切った自動車内(特に夏期)

取り扱いについて

- CDぶたまたはカセットぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 本機のスピーカーには強力な磁石が使われていますので、次のようなものは本機のそばに置かないでください。
  －時計
  －クレジットカードなどの磁気カード
  －カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープ
- テープを長い間使わなかったときは、数分間再生状態にして、ならし運転をしてください。よい状態でお使いいただけます。

CD-R/CD-RWについて

- 本機は、CD-DAフォーマット*で記録されたCD-R (レコーダブル)とCD-RW (リライタブル)ディスク、MP3フォーマットのオーディオファイルをデータ形式で記録したCD-RとCD-RWディスクを再生することができます。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては再生できない場合があります。

* CD-DAは、Compact Disc Digital Audioの略で、一般の音楽ディスクに使用されている、音楽収録用の規格です。

- 本機はCD再生専用です。CD-R/CD-RWに録音はできません。

著作権保護技術付音楽ディスクについて

- 本機は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

DualDiscについて

- DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。尚、この音楽専用面はコンパクトディスク(CD)規格には準拠していないため、本製品での再生は保証致しません。

CDの取り扱いかた

- 文字の書かれていない面(再生面)に触れないように持ちます。
- 紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

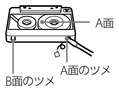
CDのお手入れのしかた

- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

テープの大切な録音を守るために

- ツメを折ると録音できなくなるので、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をセロハンテープなどでふさげば再び録音できます。



長時間テープをお使いのときは

- 90分を超えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こきざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。

エンドレスカセットテープについて

- エンドレスカセットテープはお使いにならないでください。機械に巻き込まれる場合があります。

汚れのないテープをお使いください

- 汚れやカビが付いているテープはお使いにならないでください。
  ヘッドの汚れがひどくなると、音が小さい・途切れる、音が出ない、などの症状が出て、きれいな音で録音や再生ができなくなり、故障の原因になります。

ヘッドホン(別売)使用時のご注意

- 音量を調節して、耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

保証書とアフターサービス

保証書

●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
●保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口(下記)またはお買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

型名：CFD-S51

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口
フリーダイヤル…… 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 050-3754-9577

修理相談窓口
フリーダイヤル…… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「304」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

製品登録のおすすめ
ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

◆ パソコン・スマートフォンから
http://www.sony.co.jp/radio-regi/

◀ 二次元コードでスマートフォンからアクセス

製品のご登録についてのお問い合わせ
ソニーマーケティング（株）
My Sony Club お客様窓口
電話：フリーダイヤル 0120-735-106
携帯電話・PHS ・一部のIP電話：050-3754-9639
受付時間：月～金　9:00 ～ 18:00
土日祝　9:00 ～ 17:00

故障かな？と思ったら

本機が正しく動作しないときは、下記の項目をチェックしてください。
それでも正しく動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

共 通

電源が入らない。
- 電源コードをAC IN端子とコンセントにしっかり差し込む。
- タコ足配線はせず、壁のコンセントに電源コードをつなぐ。
- 乾電池を正しく入れる。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- 買い置きしたまま長時間放置した乾電池を入れた場合、消耗していて使えない可能性があります。販売店で新しい乾電池を購入して交換してみてください。

電池の消耗が早い。
- 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。乾電池で使う場合は、アルカリ乾電池をお使いください。
- 電池持続時間については、「主な仕様」の「共通部」をご覧ください。周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により電池持続時間は異なります。

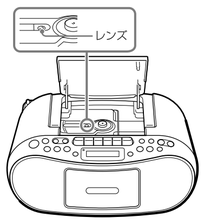
音が出ない。
- 音量を調節する。
- ヘッドホンを（ヘッドホン）端子から抜く。

本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする。
- 電源の状況により本体から「ブーン」と小さいノイズ音がする場合がありますが、故障ではありません。

雑音が入る。
- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している→携帯電話などを本機から離して使用する。
- 音量を調節して、適度な音量で聞いてください。

CD

再生が始まらない。
CDが入っているのに「noDISC」が表示される。
- CDが裏返し→文字のある面を上にする。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- レンズに露(水滴)がついている→CDを取り出してCDぶたを開けたまま1時間くらい置く。



- MP3以外のオーディオファイルをデータ形式で記録したCD-R/CD-RWは再生できません。
- **パソコンで作成されたCD-R/CD-RWディスクを本機で再生する場合は、ディスクのファイナライズ処理(通常のCDプレイヤーで再生できるようにする処理)が必要です。ファイナライズ処理されていないディスクは本機では再生できません。**
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- CD-R/CD-RWに何も記録されていない。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。

音がとぶ。
- 音量を下げる。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- 振動のない場所に置く。
- CDに傷がある→CDを取り換える。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音がとんだり、雑音が入ることがあります。

MP3ファイルを再生できない。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。本機が対応する拡張子は「.mp3」です。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない。本機はMP3形式(MPEG 1 Audio Layer-3)以外のフォーマットには対応していません。

ラジオ

FM放送の受信時にステレオにならない。
- モード切換ボタンを押して、「ST」を表示させる。
- ステレオ放送のときのみステレオで聞くことができます。

雑音が入る。
- FMステレオ放送を受信しているときは、受信状態によっては雑音が多くなります。雑音が多いときは、モード切換ボタンを押して、「Mono」に切り換えてください。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でFM放送を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。
- お住まいの地域や環境によっては、一部の放送局の受信状態が良くない場合があります。
- 受信状態が良くならない場合は、裏面の「受信状態を良くするには」もご覧ください。

「お気に入りラジオ局」ボタンを押しても、登録した放送局が受信できない。
- 放送局を登録したあと「お気に入りラジオ局」ボタンを押したままにすると、受信中の放送局で上書き登録されます。

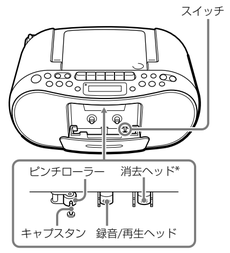
テープ

操作のボタンを押してもテープが動かない。
- カセットぶたをきちんと閉める。

前の録音を上書き消去しても完全に消えない。
- 消去ヘッドをクリーニングする。
- TYPE Ⅱ（ハイポジション）またはTYPE Ⅳ（メタル）テープを使っている→TYPE Ⅰ（ノーマル）テープを使う。

録音ができない。
- カセットを正しく入れる。
- カセットデッキに入れたカセットのツメが折れていたら、穴をセロハンテープなどでふさぐ。

雑音が多い。音質がよくない。
- ヘッドが磁化されている→市販のヘッドイレーサーを使ってヘッドを消磁する。
- ヘッドが汚れている→付属の綿棒(ヘッドクリーニングキット)で、下図に示されているテープが触れる面を軽く拭く。からぶきで改善しない場合は、市販のヘッドクリーニング液を綿棒に軽く含ませて、もう一度テープが触れる面を軽く拭く。



* 消去ヘッドを出すには、カセットデッキ内部のスイッチを指などで押しながら、テープの●（録音）ボタンを押してください。

音がひずむ
- TYPE Ⅱ（ハイポジション）またはTYPE Ⅳ（メタル）テープを使っている→TYPE Ⅰ（ノーマル）テープを使う。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウ・フラッター	測定限界以下(JEITA*1)
周波数特性	20Hz － 20,000Hz +1/−2dB（JEITA*1）
対応ファイルフォーマット	MP3（MPEG 1 Audio Layer-3）

ラジオ部

受信周波数	FM: 76.0MHz － 108.0MHz AM: 531kHz － 1,710kHz
アンテナ	FM: ロッドアンテナ AM: フェライトバーアンテナ内蔵

カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネル
早巻き時間	約2.5分(60分テープ片面)
周波数範囲	TYPE Ⅰ（ノーマル)カセット80Hz － 10,000Hz（JEITA*1）

共通部

スピーカー	フルレンジ: 8cm、コーン型4Ω、2個
入力端子	ミキシングマイク(ミニジャック）1個 最小入力レベル 2.45mV ローインピーダンスマイク用(入力インピーダンス10kΩ) 音声入力(ステレオミニジャック）1個
出力端子	ヘッドホン(ステレオミニジャック）1個 負荷インピーダンス 16Ω － 32Ω
実用最大出力	1.7W ＋ 1.7W（JEITA*1/4Ω）
電源	家庭用電源(AC100V 50Hz/60Hz) 単2形乾電池6個使用(DC 9V)(別売)
消費電力	12W
電池持続時間*2	約0.8W（電源オフ時） CD再生時(JEITA*1) 約8時間(音量24程度) FM録音時 約19時間 テープ再生時 約13時間(音量24程度)
最大外形寸法	約320mm × 139mm × 219mm (幅 × 高さ × 奥行き) (最大突起部含む)(JEITA*1)
質量	本体　約2.0kg ご使用時　約2.3kg（乾電池、CD、テープ含む）
付属品	電源コード(1)、安全のために(1)、 取扱説明書・保証書(1)、かんたんスタートガイド(1)、ヘッドクリーニングキット(1)

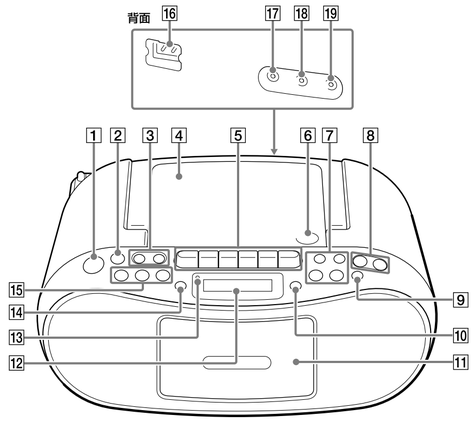
*1 JEITA（電子情報技術産業協会)規格による測定値です。
*2 ソニー単2形(LR14)アルカリ乾電池使用時。周囲の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により、上記の電池持続時間と異なることがあります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標

- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

各部のなまえ



1 電源ボタン
2 FM/AMボタン
3 選局/🗀＋ボタン
選局/🗀－ボタン
4 CDぶた
5 **テープ操作部**
❚❚(一時停止)ボタン
■≜(停止/開)ボタン
◀◀(早送り)ボタン
▶▶(巻戻し)ボタン
◀(再生)ボタン*
●(録音)ボタン
6 押す 開/閉≜
7 **CD操作部**
曲送り⏮ボタン
曲送り⏭ボタン
■(停止)ボタン
▶❚❚(CD再生/一時停止)ボタン*
8 音量＋ボタン*
音量－ボタン
9 音声入力ボタン
10 表示切換/決定ボタン
11 カセットぶた
12 表示窓
13 電源/電池ランプ
14 モード切換ボタン
15 お気に入りラジオ局(登録：長押し)ボタン
16 AC IN端子
17 （ヘッドホン)端子
18 音声入力端子
19 ミキシングマイク端子

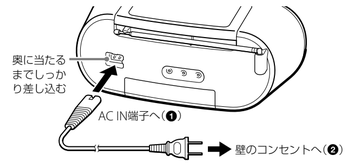
* 凸点(突起)がついています。操作の目印としてお使いください。

準備をする

本機は家庭用電源、または乾電池(別売)のいずれかを選んでお使いになれます。

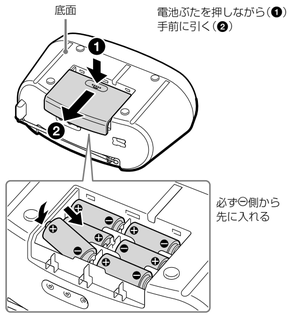
電源コードを接続する

本機のAC IN端子へ差し込んだあと(❶)、壁のコンセントへ差し込んでください(❷)。

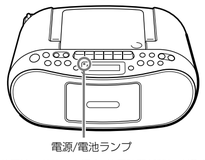


乾電池を使用する

単2形乾電池6個(別売)を入れてください。乾電池でお使いになるときは、電源コードは抜いてください。



ご注意
- 乾電池が消耗して電源／電池ランプが消えるとCDプレーヤーが使えなくなりますが、ラジオはしばらくの間使える場合があります。

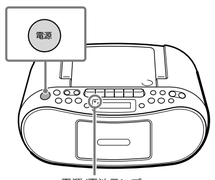


- 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。アルカリ乾電池でお使いください。
- 充電池をお使いの場合、その特性により使用時間が著しく短くなることがあります。詳しくは、充電池のメーカーにお問い合わせください。
- 乾電池を出し入れするときは、CDやテープを取り出しておいてください。ふたの中でCDやテープがすれて傷つくおそれがあります。
- 買い置きしたまま長時間放置した乾電池を入れた場合、消耗していて使えない可能性があります。販売店で新しい乾電池を購入して交換してみてください。

電源を入れる

電源ボタンを押して電源を入れてください。(電源/電池ランプが点灯します。)

電源を切るには、もう一度電源ボタンを押します。(電源/電池ランプが消灯します。)



乾電池のみで使用中、乾電池が消耗してくると電源/電池ランプが暗くなったり、自動で電源が切れたりします。このようなときは、すべて新しい電池に交換してください。

CDを聞く

次のCDを再生できます。
- 市販の音楽用CD（CD-DA）
- CD-R/CD-RW（CD-DAフォーマットで記録）
- CD-R/CD-RW（MP3オーディオファイルをデータ形式で記録）

DVD、BD（ブルーレイディスク）は再生できません。

1 「押す 開/閉⏏」を押して、CDぶたを開ける。

2 ディスクを入れ、CDぶたを閉める。
「カチッ」と音がするまでディスクの中央部を押して回転部に装着し、手でふたを閉めます。
「押す 開/閉⏏」を押し込んで、ふたをしっかり閉めてください。

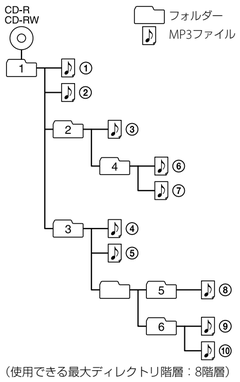
3 ►II（CD再生/一時停止）ボタンを押す。
再生が始まり、表示窓に再生経過時間が表示されます。

ご注意
- CD再生中はCDぶたを開けないでください。

ちょっと一言
- MP3ファイルの再生中は、表示窓に「MP3」が表示されます。

したいこと	操作
音量を調節する	音量＋または－ボタンを押す。 表示窓に「VOL」が表示されます。
再生をやめる	■（停止）ボタンを押す。
再生中に一時停止する	►II（CD再生/一時停止）ボタンを押す。 もう1度押すと再生が始まります。
次の曲へ進む	曲送り►►Iボタンを短く押す。
曲の頭に戻る	曲送りI◄◄ボタンを短く押す。
曲を聞きながら聞きたい部分を探す	再生中に曲送り►►IまたはI◄◄ボタンを押し続ける。
表示窓の再生時間を見ながら聞きたい部分を探す	再生中または一時停止中に曲送り►►IまたはI◄◄ボタンを押し続ける。
MP3ディスク内のフォルダーを選ぶ	選局/🗀＋または－ボタンを押す。
ディスクを取り出す	「押す 開/閉⏏」を押す。
CDの全曲数と全再生時間を調べる	再生中には2回、停止中には1回、■（停止）ボタンを押す。 全曲数、全再生時間の順に表示されます。 表示切換/決定ボタンを押すと、全曲数を再確認できます。
MP3ディスクの全フォルダー数と全曲数を調べる	再生中には2回、停止中には1回、■（停止）ボタンを押す。 全フォルダー数と全曲数が表示されます。
再生中に曲番を調べる	再生中に表示切換/決定ボタンを押す。

MP3ファイルの再生の順番について
MP3ファイルを記録したディスクでは、書き込みの方法によって再生の順番が異なる場合があります。下記のディスクの例では、①から⑩の順にファイルが再生されます。



（使用できる最大ディレクトリ階層：8階層）

MP3ディスクについてのご注意
- ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては、再生が始まるまでに時間がかかったり、再生されない場合もあります。
- 本機は、ディスク上のフォルダーを最大99個まで、ファイルを最大413個まで認識します。
- ディスクの作成時には、MP3以外のフォーマットのファイルや不要なフォルダーを書き込まないでください。
- MP3ファイルがないフォルダーは飛ばして再生されます。
- MP3ファイルには「.mp3」の拡張子を付けてください。ただし、MP3以外のフォーマットのファイルに「.mp3」の拡張子を付けても、そのファイルは正しく認識されません。
- MP3 PRO形式のファイルは再生できません。
- 本機が対応する拡張子やフォーマットのファイルがひとつも記録されていないときは、ディスクを入れても「noDISC」が表示されます。

ちょっと一言
- 一度再生を停止し、次に►II（CD再生/一時停止）ボタンを押すと、前回再生を停止した曲番より再生されます。停止中は再生中の曲番が表示されます。
- 再生前に1回、■（停止）ボタンを押すと、1曲目の始めより再生できます。

繰り返し聞く（リピート再生）

CDに入っている曲を1曲または全曲繰り返して聞くことができます。

1 停止中にモード切換ボタンを押して、以下の操作をする。

リピートの種類	操作
1曲だけ繰り返す	1「⇆1」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。 2 曲送り►►IまたはI◄◄ボタンを押して、曲番を選ぶ。
全曲を繰り返す	「⇆」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
選んだフォルダー内の全曲を繰り返す（MP3ディスクのみ）	1「⇆🗀」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。 2 選局/🗀＋または－ボタンを押して、フォルダーを選ぶ。

2 ►II（CD再生/一時停止）ボタンを押す。
再生が始まります。

リピート再生をやめるには
■（停止）ボタンを押してから、「⇆」の表示が消えるまでモード切換ボタンを繰り返し押す。

ご注意
- 再生中または一時停止中にリピート再生の設定はできません。

順不同に聞く（シャッフル再生）

CDに入っている全曲を順不同に聞くことができます。

1 停止中に「SHUF」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

2 ►II（CD再生/一時停止）ボタンを押す。
再生が始まります。

シャッフル再生をやめるには
停止中に「SHUF」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

ご注意
- 再生中または一時停止中にシャッフル再生の設定はできません。

ちょっと一言
- シャッフル再生のときは、一度再生を停止し、次に►II（CD再生/一時停止）ボタンを押しても、停止したところから再生を再開することはできません。

聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム再生）

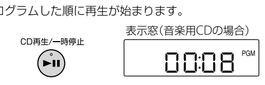
聞きたい曲を聞きたい順に25曲までプログラム登録することができます。

1 停止中に「PGM」に切り換わるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

2 I◄◄または►►Iボタンを押して曲を選び、表示切換/決定ボタンを押す。
「P-xx」が表示されます（xxはプログラム番号）。

3 引き続き曲を登録する場合は、手順2の操作を繰り返す。

4 ►II（CD再生/一時停止）ボタンを押す。
プログラムした順に再生が始まります。



プログラム再生が終わっても、作ったプログラムは残っています。►II（CD再生/一時停止）ボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞くことができます。

ご注意
- 再生中または一時停止中にプログラム再生の設定はできません。
- CDぶたを開けると、そのとき登録されていたプログラムの内容は消えます。

プログラム再生をやめるには
停止中に「PGM」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

プログラムを削除するには
再生前には1回、再生中には2回、■（停止）ボタンを押す。
そのとき登録されていたプログラムの内容が消えます。

ちょっと一言
- 26曲以降の曲をプログラムすると、「FULL」が表示されます。
- プログラム再生のときは、一度再生を停止し、次に►II（CD再生/一時停止）ボタンを押しても、停止したところから再生を再開することはできません。

ラジオを聞く

1 FM/AMボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。
「FM」または「AM」と、周波数が表示されます。FMとAMを切り換える場合は、再びFM/AMボタンを押します。

2 選局/🗀＋または－ボタンを押して、周波数を合わせる。

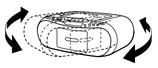
選局/🗀ボタンを押したままにして、数字が動き始めたら指を離します。受信可能な放送局が見つかると、自動的に周波数の数字が止まります。

3 音量＋または－ボタンを押して、音量を調節する。

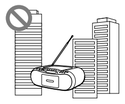
受信状態を良くするには
窓際など、電波を受信しやすい場所でお使いください。

FM放送
本体のロッドアンテナを伸ばし、向きを変える。
FM放送が聞きずらいときは、モード切換ボタンを押して、「ST」と「Mono」を切り換えてください。

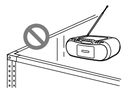
AM放送
本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。（AMのアンテナは本体に内蔵されています。）



それでも感度が悪いときは
受信する場所を変えてみてください。


ビルの谷間は避ける。

家電製品や携帯電話の近くで使わない。


金属製の机や台の上に置かない。

「お気に入りラジオ局」を登録する

よく聞く放送局を、「お気に入りラジオ局」ボタンを押すだけで簡単に登録することができます。FM、AMあわせて3局まで登録できます。

1 FM/AMボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。
「FM」または「AM」と、周波数が表示されます。FMとAMを切り換える場合は、再びFM/AMボタンを押します。

2 選局/🗀＋または－ボタンを押して、登録したい放送局を受信する。
選局/🗀ボタンを押したままにして、数字が動き始めたら指を離します。受信可能な放送局が見つかると、自動的に周波数の数字が止まります。

3 ①、②、③のいずれかの「お気に入りラジオ局」ボタンを約2秒間「ピピッ」と音がするまで押す。
放送局が登録され、選んだ「お気に入りラジオ局」ボタンの数字が点灯します。

（例）①ボタンに登録する場合

4 他のボタンに続けて放送局を登録したいときは、手順1 ～ 3を繰り返す。

登録済みのボタンに別の放送局を登録するには
手順1 ～ 3を繰り返す。
新しい放送局を登録すると、同じボタンに登録されていた前の局は消えます。

登録したラジオ局を選局する

放送局を登録した「お気に入りラジオ局」ボタンを押して、すぐ指を離す。
放送局を受信します。表示窓には選んだ「お気に入りラジオ局」ボタンの数字と、周波数が表示されます。

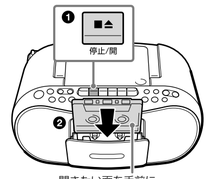
ご注意
- 放送局が登録されている「お気に入りラジオ局」ボタンを押したままにすると、受信中の放送局で上書き登録されます。

テープを聞く

操作をする前に、次のことを確認してください。
- テープはTYPE I（ノーマル）テープをお使いください。本機では、TYPE I（ノーマル）テープ以外のテープは再生できません。
- テープが機械に巻き込まれることを防ぐために、鉛筆などでたるみを巻き取ってください。

- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。

1 ■⏏（停止/開）ボタンを押して（❶）、カセットを入れ（❷）、カセットぶたを閉める。



聞きたい面を手前に

2 ◄（再生）ボタンを押す。

「ガチャッ」と音がするまで強く押し込む

ご注意
- **◄（再生）ボタンと同時に►►（巻戻し）ボタンを押さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。**

したいこと	操作
再生をやめる	■⏏（停止/開）ボタンを押す。
再生中に一時停止する	II（一時停止）ボタンを押す。もう1度押すと再生が始まります。
早送りや巻戻しをする	◄◄（早送り）または►►（巻戻し）ボタンを押す。テープを巻き終えたら、■⏏（停止/開）ボタンを押して、◄◄（早送り）または►►（巻戻し）ボタンを解除する。
音量を調節する	音量＋または－ボタンを押す。

ご注意
- テープの再生中に電源を切ると、故障の原因となります。電源を切る場合は、必ず■⏏（停止/開）ボタンで再生を止めてから電源ボタンを押してください。

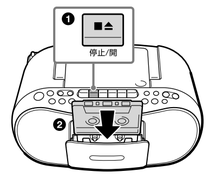
テープに録音する

操作をする前に、次のことを確認してください。
- テープはTYPE I（ノーマル）テープをお使いください。本機では、TYPE I（ノーマル）テープ以外のテープには録音できません。
- テープが機械に巻き込まれることを防ぐために、鉛筆などでたるみを巻き取ってください。

- 長時間テープは機械に巻き込まれる場合がありますので、90分以下のテープをお使いください。
- カセットのツメ（誤消去防止）が折れていないことを確認してください。

1 録音したい音を準備する。
CDを録音するとき
CDを入れ、停止しておく。（「CDを聞く」参照）
ラジオを録音するとき
録音したい放送局を受信する。（「ラジオを聞く」参照）
外部機器の音声を録音するとき
本機につないだ外部機器を再生する。（「外部機器をつないで聞く」参照）

2 ■⏏（停止/開）ボタンを押して（❶）、カセットを入れ（❷）、カセットぶたを閉める。



3 ●（録音）ボタンを押す。

ご注意
- ●（録音）ボタンと同時に►►（巻戻し）ボタンを押さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。

したいこと	操作
録音を一時停止する	II（一時停止）ボタンを押す。もう1度押すと録音が始まります。
録音を途中でやめる	■⏏（停止/開）ボタンを押す。

CDの途中から録音するには
CDの再生中、録音を開始したいところで►II（CD再生/一時停止）ボタンを押して一時停止させ、●（録音）ボタンを押す。

好きな曲順で録音するには
聞きたい曲を選んでプログラム登録してから（「聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム再生）」参照）、●（録音）ボタンを押す。

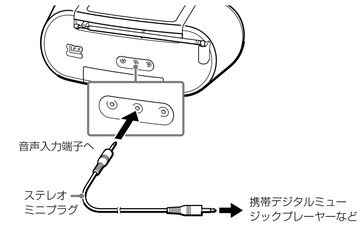
録音した曲や音声を消去するには
テープに録音した曲や音声を消去するには、上書き録音する必要があります。
1 消去したいカセットを入れる。
2 テープファンクション（機能）に切り換えるため、テープを再生してから停止状態にしておく。
3 ●（録音）ボタンを押す。
無音状態が録音され、テープ内の曲や音声が上書き消去されます。

ちょっと一言
- AM放送の録音中、手順3で●（録音）ボタンを押したあとに「ピー」という雑音がしたら、モード切換ボタンを繰り返し押して「ISS」を変えてみてください。雑音が軽減する場合があります。

外部機器をつないで聞く

携帯デジタルミュージックプレーヤーなどの外部機器を本機の音声入力端子につないで、スピーカーから流れる音を楽しむことができます。つなぐ前に本機と接続機器の電源を切ってください。

1 別売りの機器を本体背面の音声入力端子につなぐ。
別売りの音声接続コード（ステレオミニプラグ）を使って、別売りの機器の音声出力端子（ヘッドホン端子など）につなぎます。



2 音声入力ボタンを押す。
「AU IN」が表示されます。

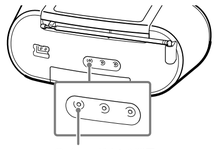
3 つないだ機器で再生を始める。
本機のスピーカーから音声が出力されます。
再生について詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

4 音量＋または－ボタンを押して、音量を調節する。

ご注意
- 接続した外部機器の出力端子がモノラルジャックの場合は、本機の右側スピーカーから音が出ない場合があります。
- 接続した外部機器の出力端子がLINE OUT端子の場合は、ひずみが発生する場合があります。音がひずんだ場合は、ヘッドホン端子につないでください。
- ミュージックプレーヤーのヘッドホン端子とつないだ場合は、ミュージックプレーヤーの音量を上げてから、本機の音量を調節してください。

ヘッドホンをつないで聞く

1 別売りのヘッドホンを本体背面の🎧（ヘッドホン）端子につなぐ。


🎧（ヘッドホン）端子

2 再生を始める。

3 音量＋または－ボタンを押して、音量を調節する。
耳を刺激しないように適度な音量で聞いてください。

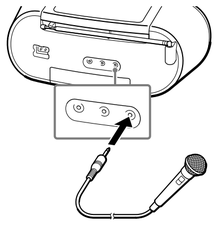
外部マイクを使う

本機に内蔵マイクはありません。

カラオケをする

別売りのマイクをつないで、CDやテープなどバックになる音に合わせて歌ったり、話したりできます。

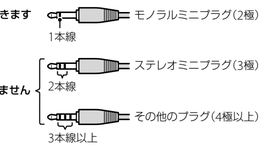
1 本体背面のミキシングマイク端子にマイクをつなぐ。
マイクに電源スイッチがあれば電源を入れます。



2 バックになる音の再生を始める。
次の項目をご覧になり、再生を始めてください。
- 「CDを聞く」
- 「ラジオを聞く」
- 「テープを聞く」
- 「外部機器をつないで聞く」

3 音量＋または－ボタンを押して、音量を調節する。

マイク使用上のご注意
- モノラルタイプのダイナミックマイクもしくは電池駆動方式のマイクをお使いください。
- 電池を必要とせず、機器のマイク端子から電力を得ることができるマイクの給電方式を「プラグインパワー方式」と呼びます。本機のミキシングマイク端子はプラグインパワー方式に対応していないため、プラグインパワー方式のマイクは使用できません。
- エコー内蔵のマイクは「ピーッ」という音（ハウリング）を起こしやすいので、音量を小さくしてお使いください。
- マイクを使っているときにハウリングが出たら、マイクの頭をスピーカーと違う方向へ向けてください。
- モノラルミニプラグ（2極）以外のマイクは使用できません。ご使用になるマイクのプラグをご確認ください。

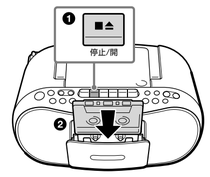


カラオケやマイクの音声をテープに録音する

BGMに合わせた歌声をカラオケとしてテープに録音することができます。マイクの音声だけを録音することもできます。

1 本体背面のミキシングマイク端子にマイクをつなぐ。
マイクに電源スイッチがあれば電源を入れます。

2 ■⏏（停止/開）ボタンを押して（❶）、カセットを入れ（❷）、カセットぶたを閉める。



3 バックになる音の録音を始める。（「テープに録音する」参照）
マイクが拾った音声も一緒に録音されます。

録音を途中でやめるには
■⏏（停止/開）ボタンを押す。

マイクの音声だけをテープに録音するには
1 本体背面のミキシングマイク端子にマイクをつなぐ。
2 カセットを入れる。
3 テープファンクション（機能）に切り換えるため、テープを再生してから停止状態にしておく。
4 ●（録音）ボタンを押す。

マイクで話す（拡声する）

別売りのマイクをつないで、拡声器として使うことができます。
テープまたはCDを一度再生してから停止状態にしてご使用ください。

1 本体背面のミキシングマイク端子にマイクをつなぐ。
マイクに電源スイッチがあれば電源を入れます。

2 音量＋または－ボタンを押して、音量を調節する。